

報道関係者各位

平成30年8月2日  
福祉保健部健康増進課  
衛生指導監 内田  
電話 055-223-1494  
FAX 055-223-1499

## ヘルパンギーナの流行状況について (中北保健所・中北保健所峡北支所管内警報レベル入り)

平成30年第30週(7月23日~7月29日)の感染症発生動向調査結果は次のとおりです。

### ヘルパンギーナの定点あたり報告数

中北保健所管内におけるヘルパンギーナの定点あたり報告数：**7.00人**<sup>1</sup>

中北保健所峡北支所管内におけるヘルパンギーナの定点あたり報告数：**10.4人**<sup>2</sup>

警報レベル基準値である6.00以上となったことから、中北保健所・中北保健所峡北支所管内はヘルパンギーナの**警報レベル**<sup>3</sup>に入ったと考えられます。

流行が拡大する可能性があることから、別紙の予防対策を改めて県民に周知したいので、報道機関の皆様方にも御協力をお願いいたします。

1【中北保健所管内】定点数8医療機関合計報告数56人 56人÷8医療機関=7.00人

2【中北保健所峡北支所管内】定点数5医療機関合計報告数52人 52人÷5医療機関=10.4人

3 定点1医療機関あたりの報告数が6.00以上で 警報レベル

(注意報レベルの設定なし。定点あたり報告数が2.0を下回ると解除。)

### 【保健所別直近の定点あたりの報告数】

週	山梨県	中北	峡北	峡東	峡南	富士・東部
30週 (7/23~7/29)	5.83	7.00	10.4	3.00	-	4.00
29週 (7/16~7/22)	2.75	4.38	3.80	0.50	1.00	1.60
28週 (7/9~7/15)	1.63	2.63	2.80	0.50	-	0.40
27週 (7/2~7/8)	0.83	2.13	0.20	0.25	-	0.20
26週 (6/25~7/1)	0.33	0.75	-	-	-	0.40

### 【過去の流行状況】

警報レベル入り 平成27年28週(7/6~7/12)~34週(8/17~8/23)

中北保健所 28週(7/6~7/12)~34週(8/17~8/23)、中北保健所峡北支所 30週(7/20~7/26)~32週(8/3~8/9)

## ヘルパンギーナ

### ヘルパンギーナとはどんな病気？

- ✓ 発熱と、口の中に水疱性の発疹があらわれるウイルス性の感染症です。
- ✓ 例年、7月頃にかけてピークがみられ、夏かぜの代表的疾患といわれています。
- ✓ 患者の年齢は、5歳以下がほとんどで、1歳代が最も多くみられます。
- ✓ 病気の原因となるウイルスは、エンテロウイルス属、主にコクサッキーウイルス A 群の感染が多い。
- ✓ 感染症法では定点把握対象の5類感染症に分類され、一部の小児科医療機関が届出基準に基づいて診断した場合、保健所に届出がされることになっています。

### どんな症状があるの？

- ✓ 感染してから2～4日後に、突然の発熱に続いて咽頭粘膜の発赤が顕著となり、口の中に直径1～2mm、大きいものは5mmくらいの小水疱ができます。やがて小水疱は破れ、浅い潰瘍になり、痛みを伴います。発熱は、2～4日間程度で解熱し、ほとんどの患者は予後が良好です。
- ✓ まれに髄膜炎、急性心筋炎などを合併することがあり、経過観察を行い、頭痛、嘔吐、心不全徴候等の出現に注意をする必要があります。

### どうやって感染するの？

- ✓ 感染経路は、**飛沫感染**(患者の唾液や鼻汁がくしゃみやせきで飛び散ることや、吸い込むことで感染)、**接触感染**(患者の手やさわったものを介して、口に入れたり鼻をさわったりすることで感染)、**糞口感染**(便の中に排泄されたウイルスが口に入ることで感染)があります。

### 治療方法と予防策は？

- ✓ ヘルパンギーナは特別な治療方法はありません。経過観察を含め、症状に応じた治療となります。まれに合併症などが起こることから、経過観察をしっかりと行う必要があります。
- ✓ ヘルパンギーナに対する予防接種はありません。快復した後でも、2～4週間の長期にわたり、ウイルスが便の中に排出されることがあるので、感染を予防するために手洗いをしっかりとし、排泄物を適切に処理しましょう。また、タオルの共用をしないようにしましょう。
- ✓ 感染者との密な接触を避けること、流行時にうがいや手指の消毒を励行して予防しましょう。